



さんが

第 八十 号

平成 二六 年
西暦 二〇一四 年
正月 月 号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

謹賀新年

玉龍山東運寺

住職 柳田彰宣



画 柳田妙子

年賀状に「迎春」と書くことがありますね。お正月に、新たな生命の力が得られる喜びを、春の躍動感になぞらえている様子がわかります。

しかし「冥土の旅の一里塚」という言い方もあるように、お正月は、自分がひとつ年をとることであります。節目にあたって、自らを省みるということでしょうか。「正」は、「一」度「止」まってみることも聞きます。

さてさて、今年はおなたにとってどんな年になりますでしょうか。何が起こっても、それが生きる糧となりますように、お祈りしております。

ご本尊さまのもと、東運寺も新しい年をむかえました。檀信徒皆さまのご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

団参に行ってきました

昨秋、十月九日から十日にかけて、恒例の檀信徒参拝旅行に行っていました。

今回の行き先は兵庫県淡路島。淡路島には、島を宝船に見立てた七福神のお寺があって、お正月にはかなりの参拝があるそうです。そこを二日間かけて、のんびりと回らせて頂きました。

お寺さん十名、檀家さん二十名の計三十名でバス一台。少しゆっくりりめの道中でした。心配された台風の影響はほとんどなく、十月というのに三十度を超える真夏のような暑さの中の島巡りでした。東運寺からも、住職と女性一名が参加しました。



写真は大黒天。八浄寺様というお寺にお奉りされています。もとは怖い顔をしたインドの神さまでしたが、日本に来て大国主命と混同され、似たような福々しいお姿に変わっていったそうです。

「今でしょ！」が昨年の流行語大賞のひとつに選ばれました。もともとは林修さんという予備校の先生が、授業で言われたものです。

現代文の講師である林先生は、漢字の勉強が重要であるにも関わらず、実際に漢字の勉強をする生徒は少ないことを気にされていたそうです。では漢字の勉強は「いつやるか？今でしょ！」との思いから発した言葉が、コマーシャルにまで採用され注目を集めたわけです。

今は過去の「結果」であり、未来の「原因」です。私たちは、過去を誇ったり悔やんだりし、未来に望みを託したりして生きていますが、それもすべて「今」と続いているものです。

仏教では、今の気持ちや行動が過去の失敗を糧に変え、未来の結果を決めていくという見方をします。未来のすべては、運命や宿命によってはじめから決まっている、という考え方ではないのです。

ただ、その結果は自分が望んだようにはいかないこともあります。人生のもっとも難しいところかも知れませんか。



↑ ホームページこちらからも